

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(第2版) <植物>
【国外由来の外来種】

		対策優先度の要件 (※対策優先度の要件は防除推進外来種のみ記入) ① 生態系に係る潜在的な影響・被害が特に重大 ② 生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらす可能性が高い ③ 絶滅危惧種等の生態・生育に重大な被害を及ぼす可能性が高い ④ 人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対して重大な被害を及ぼす				選定理由 Ⅰ. 生態系被害のうち文種が確認されている、又はその可能性が高いもの。 Ⅱ. 生物多様性保全上重要な地域で問題になっている、又はその可能性が高いもの。 Ⅲ. 人体に重篤な被害を引き起こす、又はその可能性が高いもの。 Ⅳ. 生態系被害のうち競合又は改変の影響が大きく、かつ分布拡大・拡散の可能性も高いもの。 Ⅴ. 生態系被害のほか、人体や経済・産業へ幅広く被害を与えており、かつ分布拡大・拡散の可能性もあるもの。				リスト掲載種の並び順について 藻類、コケ植物、シダ植物、裸子植物、被子植物の順である。コケ植物の並びは岩月(2001)による。シダ植物はPPGⅠ(2016) A community-derived classification for extant lycophytes and fernsによる。裸子植物は環境庁自然保護局(1994) 自然環境保全基礎調査植物目録修正版および朝日新聞社(1997)朝日百科 植物の世界 の植物分類表による。被子植物は THE ANGIOSPERM PHYLOGENY GROUP(2016) An update of the Angiosperm Phylogeny Group classification for the orders and families of flowering plants: APG IVによる。																			
		※特段の防除取り組みが要請される区域: 防除推進外来種にカテゴリ分けされた植物について、特に防除取り組みを推進すべき区域を整理 生物多様性保全上重要な地域: 国立公園や世界自然遺産地域等の原生的自然や固有種・絶滅危惧種の生息・生育する地域等 公共緑地: 都市公園など		※特定外来生物に限り、指定時の科名とAPG-PPG分類の科名が異なる場合は指定時の科名を()内に併記																									
No.	定着段階	特段の防除取り組みが要請される区域	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	定着可能性	生態系被害	分布拡大・拡散	重要地域	特に問題となる被害	進出・拡散	原産地・分布(日本を除く)	日本での分布	形態	生育環境など	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け	
1	未定着		侵入予防外来種		特定外来生物	イネ科	ピーテグラス(マラムグラス)	<i>Ammophila arenaria</i>	海岸砂丘。	Ⅳ	◎	○	(◎)	(○)	◎	◎	(◎)	○	(○)	○	—	—	—	—	—	—	—	植物防疫法では輸入時に検疫を行うことが定められている。	
2	未定着		侵入予防外来種		特定外来生物	タスキモ科	ウトウククラリア・インフラタ、ウトウククラリア・プラテンシス	<i>Utricularia inflata</i> , <i>Utricularia platensis</i>	湿地。	Ⅳ	◎	○	(◎)	—	—	◎	◎	◎	○	○	—	—	(◎)	(○)	—	—	—	植物防疫法では輸入時に検疫を行うことが定められている。	
3	未定着(小笠原・南西諸島で特に注意)		侵入予防外来種			マメ科	メスキート(キャベ)	<i>Prosopis juliflora</i>	乾燥地。	Ⅳ	○	○	(◎)	×	○	◎	(◎)	○	(◎)	○	○	(○)	—	—	—	—	—	植物防疫法では輸入時に検疫を行うことが定められている。	
4	未定着		侵入予防外来種			キク科	キダチカッコウアザミ(アゲラティナ・アデノフォラ)	<i>Ageratina adenophora</i>	開けた森林、林縁、川岸、湿った岩の多い海岸。	Ⅴ	◎	○	(◎)	×	—	◎	(◎)	○	(○)	—	—	(○)	(○)	(◎)	—	—	—	植物防疫法では輸入時に検疫を行うことが定められている。	
5	未定着(小笠原・南西諸島で特に注意)		定着防止外来種			ヤシ科	シマケンチャヤシ(ユスラヤシモドキ)	<i>Archontophoenix cunninghamiana</i>	海岸、自然林、河岸、かく乱地等。	Ⅳ	◎	◎	(◎)	×	—	◎	(◎)	○	(◎)	○	—	—	○	—	—	—	—	植物防疫法では輸入時に検疫を行うことが定められている。	
6	未定着		定着防止外来種			ベンケイイモ科	クラッスラ・ヘルムシー(クラススラ・ヘルムシー、クラススラ、クラウスラ・ヘルムシー)	<i>Oreocaulis helmsii</i>	湿地。	Ⅳ	◎	◎	(◎)	—	—	◎	(◎)	◎	(○)	—	—	(◎)	○	—	—	—	—	植物防疫法では輸入時に検疫を行うことが定められている。	
7	未定着(小笠原・南西諸島で特に注意)		定着防止外来種			マメ科	ブラックミモザ	<i>Mimosa pigra</i>	湿地、河川。	Ⅱ,Ⅳ,Ⅴ	◎	◎	(◎)	×	(◎)	◎	(◎)	○	(◎)	○	—	(◎)	○	—	—	—	—	植物防疫法では輸入時に検疫を行うことが定められている。	
8	未定着		定着防止外来種			グミ科	ホソグミ(ロシアンオリーブ、ヤナギバグミ、スナナツメ)	<i>Elaeagnus angustifolia</i>	湿地や河原。	Ⅳ	○	◎	(◎)	—	◎	◎	(◎)	○	(◎)	—	—	(◎)	○	—	—	—	—	植物防疫法では輸入時に検疫を行うことが定められている。	
9	未定着		定着防止外来種			クワ科	フランスゴムノキ(コバノゴムビワ、コバノゴム)	<i>Ficus rubiginosa</i>	暖かい地域の自然林。	Ⅳ	○	◎	(◎)	—	—	◎	(◎)	○	(◎)	—	—	○	—	—	—	—	—	植物防疫法では輸入時に検疫を行うことが定められている。	
10	未定着(小笠原・南西諸島で特に注意)		定着防止外来種			イラクサ科	ヤツデグワ(ガルモ)	<i>Cecropia peltata</i>	森林、かく乱地、林縁等。	Ⅳ	◎	○	(◎)	×	—	◎	(◎)	○	(◎)	○	—	—	○	—	—	—	—	植物防疫法では輸入時に検疫を行うことが定められている。	
11	未定着(小笠原・南西諸島で特に注意)		定着防止外来種			イラクサ科	ケクロピア・シュレベリアナ	<i>Cecropia schreberiana</i>	自然林、植林地、草地、川岸、かく乱地。	Ⅳ	◎	○	(◎)	×	—	◎	(◎)	○	(◎)	○	—	—	○	—	—	—	—	植物防疫法では輸入時に検疫を行うことが定められている。	
12	未定着		定着防止外来種			カバノキ科	ヨーロッパハンノキ(オウシュウクロハンノキ、セイウヤマハンノキ、グルチノーザハンノキ)	<i>Alnus glutinosa</i>	湿地。	Ⅳ	◎	◎	(◎)	(○)	○	○	(◎)	○	(◎)	—	—	—	○	—	—	—	—	植物防疫法では輸入時に検疫を行うことが定められている。	
13	未定着(小笠原・南西諸島で特に注意)		定着防止外来種			フトモモ科	タチバナアデク(ビタンガ、スリナムチェリー、ブラジリアンチェリー、カイエンチェリー、カボチャアデク)	<i>Eugenia uniflora</i>	暖かい地域の自然林。	Ⅳ	◎	◎	(◎)	×	—	○	(◎)	○	(◎)	○	—	—	○	—	—	—	—	植物防疫法では輸入時に検疫を行うことが定められている。	
14	未定着(小笠原・南西諸島で特に注意)		定着防止外来種			フトモモ科	ムラサキフトモモ(アマゾンオーリーブ、ジャンボラン、ヨウミヤクアデク、メシゲラック、ムレザキフトモモ)	<i>Syzygium cumini</i>	森林。	Ⅳ	◎	◎	(◎)	—	—	◎	(◎)	○	(◎)	○	—	—	○	—	—	—	—	植物防疫法では輸入時に検疫を行うことが定められている。	
15	未定着(小笠原・南西諸島で特に注意)		定着防止外来種			ノボタン科	アメリカクサノボタン(クリデミア・ヒルタ)	<i>Miconia oronata</i>	自然林、草原、水辺、かく乱地、低木林等。	Ⅳ	◎	◎	(◎)	×	—	◎	(◎)	○	(◎)	○	—	(◎)	○	○	—	—	—	植物防疫法では輸入時に検疫を行うことが定められている。	

No.	定着段階	特段の防除 取り組みが 要請される区 域	カテゴリ	対策優 先度の 要件	特定 外来 生物	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地 域や環境	選定理由	評価項目													原産地・分布 (日本を除く。)	日本での分布	形態	生育環境など	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
											評価項目																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
											定着可能性	生態系被害	分布拡大・拡散			重要 地域	特に問題 となる被害 人体	経済 産業	逸出・拡散	付着 害虫																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						</

No.	定着段階	特段の防除 取り組みが 要請される区 域	カテゴリ	対策優 先度の 要件	特定 外来 生物	科名	和名(別名・流通名)	学名	特に問題となる区 域や環境	選定理由	評価項目										原産地・分布 (日本を除く。)	日本での分布	形態	生育環境など	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
											評価項目																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
											定着可能性	生態系被害	分布拡大・拡散	重要地域	特に問題となる被害	経済産業	逸出・拡散	付着・逸入																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続	重要地域	特に問題となる被害	経済産業	逸出・拡散	付着・逸入																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
38	分布拡大期～まん延期	生物多様性保全上重要な地域	防除推進 外来種	①④		クチビルケイソウ科	ミズワタクチビルケイソウ	<i>Cymbella janischii</i>	アユやヤマメ・アマゴ、イワナ等の魚場となる河床、川上流域	IV、V																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														

No.	定着段階	特種の防除 取り組みが 実施される区 域	カテゴリー	対策優 先度の 要件	特定 外来 生物	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地 域や環境	選定理由	評価項目										原産地・分布 (日本を除く。)	日本での分布	形態	生育環境など	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け						
											定着可能性																											
											生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続	重要 地域	特に問題 となる被害 人体	経済 産業	逸出・拡散 利用	付着 逸入														
49	分布拡大期～ま ん延期	生物多様性 保全上重要 な地域	防除推進 外来種	①②③		トチカガミ科	コウガイセキショウモ	<i>Vallisneria x pseudorosulata</i>	池沼や河川。	Ⅱ、Ⅳ																						農林水産省・外来種等が農業水利施設に及ぼす 影響と対策の検討 https://www.maff.go.jp/j/nousin/kankyo/kankyo jizen/gairai.html【URL取得日：2026年3月13 日】 福岡県・福岡県侵略的外来種防除マニュアル 【URL取得日：2026年3月13日】	農林水産省・外来種等が農業水利施設に及ぼす 影響と対策の検討 https://www.maff.go.jp/j/nousin/kankyo/kankyo jizen/gairai.html【URL取得日：2026年3月13 日】 福岡県・福岡県侵略的外来種防除マニュアル 【URL取得日：2026年3月13日】	農林水産省・外来種等が農業水利施設に及ぼす 影響と対策の検討 https://www.maff.go.jp/j/nousin/kankyo/kankyo jizen/gairai.html【URL取得日：2026年3月13 日】 福岡県・福岡県侵略的外来種防除マニュアル 【URL取得日：2026年3月13日】	農林水産省・外来種等が農業水利施設に及ぼす 影響と対策の検討 https://www.maff.go.jp/j/nousin/kankyo/kankyo jizen/gairai.html【URL取得日：2026年3月13 日】 福岡県・福岡県侵略的外来種防除マニュアル 【URL取得日：2026年3月13日】			
50	分布拡大期～ま ん延期	生物多様性 保全上重要 な地域	防除推進 外来種	①②③		アヤメ科	キショウブ	<i>Iris pseudacorus</i>	池沼や湿地。特に 近縁のカキツバタ 等の生育地。	Ⅱ、Ⅳ																						福岡県・県内の外来植物駆除の試み「裏磐梯、 南湖公園、矢ノ原湿原」 https://www.pref.fukuoka.jp/uploaded/attach ment/567094.pdf【URL取得日：2026年3月13 日】	NPO法人三浦半島生物多様性保全・外来生物マ ニュアルNo.5 キンヨブ https://mbcr-m.com/pages/id2117【URL取得 日：2026年3月16日】	福岡県・県内の外来植物駆除の試み「裏磐梯、 南湖公園、矢ノ原湿原」 https://www.pref.fukuoka.jp/uploaded/attach ment/567094.pdf【URL取得日：2026年3月13 日】	NPO法人三浦半島生物多様性保全・外来生物マ ニュアルNo.5 キンヨブ https://mbcr-m.com/pages/id2117【URL取得 日：2026年3月16日】			
51	定着初期／関 定分布(小笠 原・南西諸島 特に注意)	生物多様性 保全上重要 な地域(小笠 原・南西諸 島)	防除推進 外来種	①②③		クサスギカズ ラ科	アオノリュウゼツラン (リュウゼツラン、アガ ベ・アメリカナ)	<i>Agave americana</i>	海岸岩場。	Ⅱ、Ⅳ																							植物防疫法では輸入時に 検疫を行うことが定められて いる。					
52	定着初期／関 定分布(小笠 原・南西諸島 特に注意)	生物多様性 保全上重要 な地域(小笠 原・南西諸 島)	防除推進 外来種	①②③		クサスギカズ ラ科	サイザル(サイザルア サ)	<i>Agave sisalana</i>	海岸、草地、低木 林。	Ⅱ、Ⅳ																							植物防疫法では輸入時に 検疫を行うことが定められて いる。					
53	定着初期／関 定分布	生物多様性 保全上重要 な地域	防除推進 外来種	①②③		クサスギカズ ラ科	アツバキミギヨラン(ユツ カラ、ユッカ)	<i>Yucca gloriosa</i>	海岸砂浜。	Ⅱ、Ⅳ																							植物防疫法では輸入時に 検疫を行うことが定められて いる。					
54	分布拡大期～ま ん延期	生物多様性 保全上重要 な地域	防除推進 外来種	①③		ツユクサ科	ノハカタカラクサ(トキワ ツユクサ、トラデスカン ティア・フルミネシス)	<i>Tradescantia mundula</i>	二次林林床。	Ⅳ																								NPO法人三浦半島生物多様性保全・外来生物マ ニュアルNo.3 トキワツユクサ https://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/5555/bu stres/documents/m03_tokiwatuyukusa.pdf【URL 取得日：2026年3月13日】				
55	定着初期／関 定分布(小笠 原・南西諸島 特に注意)	生物多様性 保全上重要 な地域(小笠 原・南西諸 島)	防除推進 外来種	①②③		ツユクサ科	ムラサキオモト(シキン ラン)	<i>Tradescantia spathacea</i>	林床。	Ⅱ																							植物防疫法では輸入時に 検疫を行うことが定められて いる。					
56	分布拡大期～ま ん延期	全国	防除推進 外来種	①②③		ミズアオイ科	ホテイアオイ(ウォーター ヒヤシンス、ホテイソウ)	<i>Eichhornia crassipes</i>	池沼や湿地。	Ⅱ、Ⅳ																								福岡県・福岡県侵略的外来種防除マニュアル https://www.jstape.jst.go.jp/article/suisan/78/4 /78_M41767-6/article-char/ja【URL取得日： 2026年3月13日】				
57	分布拡大期～ま ん延期	生物多様性 保全上重要 な地域	防除推進 外来種	①③		イグサ科	コゴメイ	<i>Juncus polyanthemus</i>	河川敷や湿地。	Ⅳ																							植物防疫法では輸入時に 検疫を行うことが定められて いる。					
58	定着初期／関 定分布	生物多様性 保全上重要 な地域	防除推進 外来種	①③		カヤツリグサ 科	アサハタヤガミスゲ	<i>Carex longii</i>	湿地。	Ⅱ、Ⅳ																								植物防疫法では輸入時に 検疫を行うことが定められて いる。				
59	分布拡大期～ま ん延期	生物多様性 保全上重要 な地域	防除推進 外来種	①②③		カヤツリグサ 科	シュロガヤツリ(カラカサ ガヤツリ)	<i>Cyperus alternifolius</i> esp. <i>fiabelliformis</i>	暖地の池沼や湿 地。	Ⅱ、Ⅳ																								千葉県地方環境事務所・千葉県森林管理局・東京 都・小笠原村：世界自然遺産・小笠原諸島生態系 アクションプラン【第2期】 https://opsawara- info.jp/pdf/issue/ActionPlan2_nihongo.pdf【URL取 得日：2026年3月13日】				
60	分布拡大期～ま ん延期	生物多様性 保全上重要 な地域	防除推進 外来種	①③		カヤツリグサ 科	メリケンガヤツリ(オニシ ロガヤツリ)	<i>Cyperus eragrostis</i>	湿地、河川敷。	Ⅳ																							植物防疫法では輸入時に 検疫を行うことが定められて いる。					
61	分布拡大期～ま ん延期	生物多様性 保全上重要 な地域	防除推進 外来種	①②③		イネ科	オオハマガヤ(アメリカハ マニンニク、アメリカカイ ガンソウ、アメリカンビー チグラス)	<i>Ammophila brevifolula</i>	海岸砂浜。	Ⅱ、Ⅳ																								農研機構：宮城県仙台市宮城野区岡田で防除場 セット/バックが行われた海岸の種管理植物種 https://www.jstape.jst.go.jp/article/cece/25/2/2 5_2-00020/article-char/ja【URL取得日： 2026年3月13日】				

No.	定着段階	特種の防除 取り組みが 要請される区 域	カテゴリ	対策優 先度の 要件	特定 外来 生物	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる区 域や環境	選定理由	評価項目										原産地・分布 (日本を除く。)	日本での分布	形態	生育環境など	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
											評価項目																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
											定着可能性	生態系被害	分布拡大・拡散			重要 地域	特に問題 となる被害 人体	経済 産業	逸出・拡散 利用	付着 侵入																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
110	分布拡大期～ま ん延期	生物多様性 保全上重要な 地域	防除推進 外来種	①②③		キク科	オオアレチノギク	<i>Erigeron sumatrensis</i>	生物多様性保全上 重要な地域の草 地、荒地等。	II、IV	1920年前後渡 来。北海道～九 州、南西諸島、小 笠原に分布。	◎	—	—	◎	◎	◎	◎	◎	—	◎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

防除検討外来種(被害の大きさが防除推進外来種には及ばないもの)

120	分布拡大期～まん延期	防除検討 外来種			ミカヅキゼニゴケ科	ミカヅキゼニゴケ	<i>Lunularia cruciata</i>	道端等、特に在来のコケ類が生育する道端。	IV	1929(昭和4)年に宮城県仙台市で発見された。北海道、本州、九州、初めは大都市付近に知られていたが、街道沿いに広がって、全国の農耕地に広がっている。	◎	—	—	◎	○	◎	○	—	—	(○)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
-----	------------	-------------	--	--	-----------	----------	---------------------------	----------------------	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	-----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

No.	定着段階	特設の防除 取り組みが 要請される区 域	カテゴリ	対策後 先達の 要件	特定 外来 生物	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地 域や環境	選定理由	評価項目										原産地・分布 (日本を除く。)	日本での分布	形態	生育環境など	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
											評価項目																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
											定着可能性	生態系被害	分布拡大・拡散	重要 地域	特に問題 となる被害 人体	経済 産業	逸出・拡散	付着 侵入																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続	重要 地域	特に問題 となる被害 人体	経済 産業	逸出・拡散	付着 侵入																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
212	分布拡大期～ま ん延期		防除検討 外来種			キク科	アラゲハンゴンソウ(キヌ ガサギク、ルドベキア・ヒ ルタ、グロリオサ・デー ジー、マツカサギク)	<i>Rudbeckia hirta</i> var. <i>pulcherrima</i>	渚原、自然草原。	Ⅱ、Ⅳ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				

No.	定着段階	特段の防除 取り組みが 要請される区 域	カテゴリ	対策優 先度の 要件	特定 外来 生物	科名	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地 域や環境	選定理由	評価項目															原産地・分布 (日本を除く。)	日本での分布	形態	生育環境など	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け
											定着可能性			生態系被害			分布拡大・拡散			重要 地域	特に問題 となる被害 人体		経済 産業	逸出・拡散													
											生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続		人体	経済 産業		利用	付着 逸入												
231	分布拡大期～ま ん延期		産業管理 外来種			マメ科	外来クサフジ類(ビロード クサフジ(ヘアリーベツ チ、シラガクサフジ)、ナ ヨクサフジ(スムーズベ チ))	<i>Vicia villosa</i> ssp. <i>villosa</i> 、 <i>Vicia villosa</i> ssp. <i>varia</i>	河川敷や山地草 原。	Ⅱ、Ⅳ				◎	—	◎	◎	◎	◎	○	◎	—	(○)	◎	—	ビロードクサフジ はヨーロッパ～西 アジア原産。アフ リカ、オーストラリ ア、南北米に外来 分布。ナヨクサフ ジはヨーロッパ原 産、西アジアに外 来分布。	1840年代に野生 化が確認。北海 道、本州、四国、 九州、南西諸島 に分布。	1.5m、つ る性の 一年草	道端、畑地、牧草地、樹園地、荒地、河 川敷、草地等。山地までみられ、熱帯で は高地にみられる。	ヘアリーベツチの名で、飼料や緑肥とし て栽培される。	河川に侵入して種子が拡散される場所 へは、持ち込まない。	河原で繁殖することから、カワラヨモギ、 メドハギ等の河原植物と競合し、駆逐す るおそれがある。群馬県では、県の絶滅 危惧16種のレンリソウ自生地に繁殖して いる。 ビロードクサフジは1941年に野生化が 確認。北海道、本州、四国、九州、南西 諸島に分布。ナヨクサフジは1943年に 野生化が確認。本州、四国、九州、南西 諸島に分布。 特定の系統の牛では中毒事例がある。在 来種のクサフジ等、良く似た種類が多い。 種子は風、雨、動物により分散。アレロ パシー作用がある。	④FAO、⑥、⑦専門家：河原32、 ⑦各県リスト：北海道・福島・茨 城・群馬・埼玉・千葉・東京・長 野・岐阜・静岡・愛知・滋賀・京 都・奈良・和歌山・徳島・香川・高 知・福岡・長崎・宮崎・鹿児島、 ⑧河川：9.16.27 4.4.2	豪野美心、永山真衣、山本浩大：身近な場所であ がるナヨクサフジ・川沿い以外の市ノオナー特 定と刈取時期の検討 https://www.esj.ne.jp/meeting/abst/68/PH- 24.html【URL取得日：2026年3月13日】	—	植物防疫法では輸入時に 検疫を行うことが定められ ている。	
232	分布拡大期～ま ん延期		産業管理 外来種			バラ科	ビワ(ヒワ)	<i>Eriobotrya japonica</i>	石灰岩質の岩崖 地。	Ⅳ			◎	×	—	◎	○	◎	◎	○	○	—	—	◎	—	中国四川省、湖 北省原産。北米、 太平洋諸島、レニ ニオン島に外来 分布。	奈良時代から記 録があり、本州、 四国、九州に分 布。	10m、常 緑高木	日本では、暖地の石灰岩地で野生化し ている。海外では、農耕地、自然林、植 林地、河岸、荒地、かく乱地に生育す る。	様々な品種が食用に栽培される。薬用 にも利用される。	園内の植物群落が生育する地域には、 持ち込まない。	太平洋諸島やレニニオンでは侵略的な 外来種となっている。	⑥専門家：岩場13、⑦各県リス ト：福島・群馬・埼玉・千葉・東 京・岐阜・静岡・愛知・奈良・和歌 山・香川・長崎・大分・宮崎、⑩ 海外：ISSG	便覧、木本Ⅰ	—	植物防疫法では輸入時に 検疫を行うことが定められ ている。	
233	定着初期／限 定分布(小笠 原・南西諸島で 特に注意)		産業管理 外来種			パパイヤ科	パパイヤ(パパイア、パ パヤ、モッカ、チチウリ)	<i>Carica papaya</i>	小笠原・南西諸島 の森林や林縁。	Ⅱ			◎	×	—	◎	○	○	○	◎	—	—	◎	—	熱帯アメリカ原 産。世界の亜熱 帯、熱帯に広く外 来分布。	小笠原諸島には 1830年に持ち込 まれた。南西諸島 への最末年は不 明。本州(千葉県)、 屋久島、小笠原 諸島、小笠原 諸島に分布。	8m、草 本状常 緑小高 木	南西諸島では、島やオオコモウリも果実 をよく食べ、東海周辺の林縁によく野生 化している。	南西諸島では古くから民家の庭先等 で栽培され、未熟果は野菜、完熟果は果 物として利用される。	生物多様性の保全上重要な地域に侵 入するおそれのある場所には、持ち込 まない。	小笠原国立公園特別保護地区の母島の 石門地域の運性濃木林のギャップに 先駆種として侵入し、在来植物と競合し ている。屋久島、奄美大島では栽培途 出し、在来種と競合している。 雌雄異株、雌雄同株の品種もある。 繁殖の際には、最低限地際での切断が 必要で、薬剤を使用すれば確実に駆除 できる。	⑦各県リスト：鹿児島、⑧その 他：環境省関東、⑩農水省	一般社団法人日本森林技術協会：小笠原諸島に おける植生回復事例集(パパイヤ優占群落での 森林修復：母島石門) https://www.jarfa.or.jp/contents/_files/jigyo_con sulting/R4_oga_research_report.pdf【URL取得日： 2026年3月13日】	—	植物防疫法では輸入時に 検疫を行っている。		
234	分布拡大期～ま ん延期		産業管理 外来種			マタギ科	キウイフルーツ(シナサ ルナシ)	<i>Actinidia chinensis</i> var. <i>deliciosa</i>	森林。	Ⅳ			◎	—	—	◎	◎	◎	◎	○	—	—	◎	—	中国原産。ヨー ロッパ、北米に外 来分布。	北海道、本州、四 国の一部に分 布。	8m、つ る性の常 緑木本	幼木時代には被害を受けやすいが、樹 齢が進めば休眠中の耐害性は相対に 強くなる。凍害、風害には弱い。土壌条 件は乾燥、過湿にも弱い。カンキツ類の 栽培適地にはほぼ一致する。	日本にはニュージーランドで改良された 品種が導入した。 1969年に実生苗と導入苗から初結実を みて、近年栽培面積が増加している。 様々な品種がある。	河川や雑木林に侵入するおそれのある 場所では放牧を放棄する場合には、つる が周囲に伸びたり、種子が運ばれるこ ろのないよう、適切な処置が望まれる。	河川が増加傾向にあり、島により種子が 散布されること等から、雑木林への影響 が危惧されている。 また、耕作放棄地等からつるが伸びたし て周囲の植生を圧迫する可能性があ る。種子をつけ始めると急速に分布拡大 の危険性がある。雌雄異株なので、結 実には両性の株が必要。	⑥専門家：雑木7、⑦各県リス ト：福島・茨城・群馬・埼玉・千葉・東 京・長野・岐阜・愛知・滋賀・京 都・奈良・和歌山・香川・愛媛・高 知・福岡・長崎・大分・沖縄、⑧ 河川：0.5.10	便覧、木本Ⅰ、有用、 JF、Ylist、園芸事典、 POWO	—	植物防疫法では輸入時に 検疫を行うことが定められ ている。		

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(第2版) <植物>

【国内由来の外来種・国内に自然分布域を持つ国外由来の外来種】

- 対策優先度の要件(※対策優先度の要件は防除推進外来種のみ記入)
- ① 生態系に係る潜在的な影響・被害が特に重大
 - ② 生物多様性保全上重要な地域に侵入・定着し被害をもたらし可能性が高い
 - ③ 絶滅危惧種等の生態・生育に重大な被害を及ぼす可能性が高い
 - ④ 人の生命・身体や農林水産業等社会経済に対して重大な被害を及ぼす

- 選定理由
- I. 生態系被害のうち交雑が確認されている、又はその可能性が高いもの。
 - II. 生物多様性の保全上重要な地域で問題になっている、又はその可能性が高いもの。
 - III. 人体に重篤な被害を引き起こす、又はその可能性が高いもの。
 - IV. 生態系被害のうち競合又は改変の影響が大きき、かつ分布拡大・拡散の可能性も高いもの。
 - V. 生態系被害のほか、人体や経済・産業へ幅広く被害を与えており、かつ分布拡大・拡散の可能性もあるもの。

リスト掲載種の並び順について
藻類、コケ植物、シダ植物、裸子植物、被子植物の順である。コケ植物の並びは岩月(2001)による。シダ植物はPPG I(2016) A community-derived classification for extant lycophytes and ferns)による。裸子植物は環境庁自然保護局(1994)自然環境保全基礎調査植物目録修正版および朝日新聞社(1997)朝日百科、植物の世界、の植物分類表による。被子植物は THE ANGIOSPERM PHYLOGENY GROUP(2016) An update of the Angiosperm Phylogeny Group classification for the orders and families of flowering plants: APG IV)による。

※防除の防除取り組みが要請される区域: 防除推進外来種にカテゴリ分けされた植物について、特に防除取り組みを推進すべき区域を整理
生物多様性保全上重要な地域: 国立公園や世界自然遺産地域等の原生的自然や固有種・絶滅危惧種の生態・生育する地域等
公共緑地: 都市公園など

2026.9.11

No.	定着段階	特種の防除取り組みが要請される区域	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外来生物	分類群	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる地域や環境	選定理由	評価項目										自然分布	形態	生育環境など	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
											定着可能性		生態系被害			分布拡大・拡散																重要地域	特に問題となる被害	経済産業	利用	付帯																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
											生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	永続																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
総合対策外来種(定着)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
防除推進外来種(生態系等へ及ぼす影響が大きなもの)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
1	国内由来の外来種	生物多様性保全上重要な地域(小笠原諸島)	防除推進外来種	①②③		マツ科	小笠原諸島などのリュウキュウマツ(リュウキュウアカマツ、オキナワマツ)	<i>Pinus luchuensis</i>	小笠原諸島の草原、森林。	II、IV				◎	×	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

【国内に自然分布域をもつ国外由来の外来種】

No.	定着段階	特段の 防除取り 組みが 要請され る区域	カテゴリ	対策優先度の要件	特定外 来生物	分類群	和名(別名、流通名)	学名	特に問題となる 地域や環境	選定理由	評価項目												自然分布	形態	生育環境など	日本での利用状況	利用上の留意事項	備考	抽出根拠等	文献等	防除事例	防除マニュアル	他法令での位置付け				
											定着可能性				生態系被害				分布拡大・拡散															重要 地域	特に問題 となる被害 人体	逸出・拡散	
											生物	導入	競合	交雑	改変	散布	繁殖	気候	持続	経済 産業	利用	付着 侵入															

侵入・定着防止外来種(未定着)

侵入予防外来種(まだ侵入していない種)

12	未定着		侵入予防 外来種			イワツタ科	変異種のイチイヅタ(キ ラー海藻、フェザー・カウ レルバ)	<i>Caulerpa taxifolia</i>	海域。	IV	○	○	◎	—	○	◎	◎	◎	○	○	○	—	◎	—	—		2.8m、海藻	熱帯～亜熱帯海域に分布するのは20℃以下では生存できないが、地中海に生育する変異種は10℃以下でも死滅しない。 野生種は砂泥～砂礫に生育するが、変異種は岩盤、砂藻、花や他の植物の上等、海底産物を這ばずに生育できる。	見栄えがよく水質をよくするという理由で、熱帯魚店で販売され、水族館でも展示された事例がある。	日本で利用されている可能性がある。栽培に用いた水を含め、自然海域に持ち込まない。	経藻植物門。 本リストで示す変異種とは、地中海のモナコ水族館に由来する単一起源クローン系統を指し、キラー海藻と呼ばれる。フェザー・カウレルバは羽根状形態のカウレルバの総称であり、同属の他の種も含まれる。 海外で侵略的な外来種とされる。変異種は観賞魚で確認されたことがあるが、冬の低温で枯死した。 野生種は有性生殖を行うが、変異種は匍匐茎や茎状節断片による無性生殖のみが確認されている。 海外の事例では、本種が繁茂することにより、食用ウニ等の水産物の減少や、魚介類の餌料となる小動物の減少による魚介類等の卵の発生率が低下した。また、軟体動物・海綿類・多毛類等のベントス類の生育がかく乱され、集団数や個体数が減少した事例がある。	②WI100: IUCN・日本、⑦各県リスト: 京都・佐賀・長崎・沖縄、⑧海外: ISSG、⑪その他: 検討委員	H16第1回の金糸植物資料、海洋産業研究会2003、小松2002	内村真之: 地中海のイチイヅタ http://souni.org/publications/souni/list/Souni1.PDF/Souni-47-03-187.pdf【URL取得日: 2025年6月11日】	—	
----	-----	--	-------------	--	--	-------	-------------------------------------	---------------------------	-----	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	---------	--	--	--	--	--	----------------------------------	--	---	--

総合対策外来種(定着)

防除推進外来種(生態系等へ及ぼす影響が大きなもの)

13	分布拡大期～まん延期	全国	防除推進 外来種	①③④		ヒルガオ科	外来ノアサガオ	<i>Ipomoea indica</i>	海岸、林縁、農地、河川。	IV			◎	○	—	◎	◎	◎	○	○	—	◎	○	◎	伊豆七島、小笠原諸島、紀伊半島以南から四国、九州、南西諸島、東南アジア～オーストラリア。外来系統の園芸品種が各地で逸出。	10m以上、つる性の多年草	海岸、人里近くの道端、林縁、畑地、樹園地、牧草地、荒地等。	ノアサガオの外来系統の園芸品種(イリオモテアサガオ、オーシャンブルー Ocean Blue、宿根アサガオ、クリスタルブルー、琉球アサガオ等と呼ばれる)が盛んに栽培され、逸出している。 種間雑種を含む様々な園芸品種が流通し、利用されている。ノアサガオの外来系統は垂直面緑化(グリーンカーテン)の有望種とされる。	つる植物なので他の植物を覆い尽くして生長し、種子で繁殖するもの。実葉繁殖するもの、強健で耐寒性があるもの等を含む。在来種を駆逐する等、生態系に影響を及ぼすことされるため、生物多様性の保全上重要な地域に侵入させることのないよう、管理の放棄や苗の投棄を行わない配慮が必要である。	アサガオ属 <i>Pharbitis</i> は、サツマイモ属 <i>Ipomoea</i> に含める文献が多い。 オオバアサガオアサガオはノアサガオの外来系統として区別する見解がある。 海外では畑地雑草となっている。 ノアサガオの交雑繁殖系統地品種はいずれも自家不和合性で種子はできないが、実株近くから発根して根付く。 後全上重要な地域に侵入した場合に防除の対象となる。	⑦各県リスト: 栃木・群馬・東京・長野・静岡・愛知・岐阜・高知・長崎・大分・宮崎・沖縄	世雄 1、便覧、寄寓園、園芸事典、緑化植物、IPSW	—	—	植物防疫法では輸入時に検疫を行うことが定められている。
----	------------	----	-------------	-----	--	-------	---------	-----------------------	--------------	----	--	--	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--	---------------	-------------------------------	---	---	--	---	----------------------------	---	---	-----------------------------

産業管理外来種(適切な管理が必要な産業上重要な外来種)

14	分布拡大期～まん延期		産業管理 外来種			イネ科	外来クサヨシ(リードカナリーグラス)	<i>Phalaris arundinacea</i>	河川、湿地。	I-IV			◎	◎	—	◎	◎	◎	○	—	—	○	◎	—	北海道～九州、北半球の冷温帯。北海道では明治年限の導入種が野生化したとされる。東日本各地で導入した外来牧草系統と考えられる集団を確認。	1.8m、多年草	牧草地、水辺、水路、林縁、湿地。日当たりの良い、湿地～流水の所、肥沃地にも多く、土壌の種類を選ばない。寒冷湿潤な気候を好むが、耐暑性、耐乾性も強い。	牧草として利用される。草花種として流通し、利用される。アメリカで育成された品種がある。 本種は東北、関東圏を中心に需要がある。非常に耐湿性が高く、雨や地下水の影響で土地の水はけが悪い水田跡地や、省力的な管理が求められる条件不利な中山間地に適した牧草として利用されており、畜産業として代替可能な種はない。	湿地に逸出した外来クサヨシは他の植物を排除し、種の多様性を低下させる。牧草利用する際には、牧草地外への種子の逸出を防止するために、結実前に刈り取り、周縁部の草刈りを適切に行うとともに、利用しない種子については放置せずに適切に処分する。その他の有意図的な外来種の混入を防ぐ観点から、種子証明のある種子の利用が望ましい。 生物多様性の保全上重要な地域に影響を及ぼすおそれのある場所には、持ち込まない。	種子と根茎で繁殖する。種子形成量は多く、水で遠方まで伝播し、休眠性を待った。牧草地や水路の雑草として制御される。逸出／管理下にならないものは防除の対象となる。 除草、野焼き、薬剤散布、放牧等の抑制手法があるが、効果を維持するためには長期間の継続が必要である。 在来系統と外来系統で遺伝的に異なり、両種が交雑し、遺伝的かく乱が起こりうる。	⑦各県リスト: 北海道、⑫検討委員	野生植物2、便覧、各県: 北海道、JF、ISSG、世雄 III、稲原科、有用、農林水産省回答(第2回植物WG)、上山・久保田2009、櫻井ほか2022	櫻井香文・矢部和夫・片桐吉司・椎野亜紀夫: 日本のはる冷地小川川におけるクサヨシ除去による沈水植物復元の検証 https://j-wetlands.jp/wp-content/uploads/2022/06/WR21004NEFBC0%80%8E9%7A9E9%8C9F%E9%85%AC%E9%96%8B%E7%94%A8%E9%BC%89.pdf【URL取得日: 2025年6月11日】	—	植物防疫法では輸入時に検疫を行うことが定められている。
----	------------	--	-------------	--	--	-----	--------------------	-----------------------------	--------	------	--	--	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----------	--	--	---	--	-------------------	---	--	---	-----------------------------

＜種の抽出に利用した既存の文献等＞

下記の文献等より全体で数百種類程度となるよう抽出を行った。

①特定外来生物と要注意外来生物

※要注意外来生物リストは、生態系被害防止外来種リスト(平成27年3月時点のリスト)の作成当時に抽出根拠として使用された。生態系被害防止外来種リストの公表に伴い、要注意外来生物リストは発展的に解消され、平成27年3月に廃止された。

②IUCNのワースト100 <http://www.issg.org/database/species/search.asp?st=100ss&fr=1&str=&lang=EN>

及び日本の侵略的外来種ワースト100:日本生態学会(2002)外来種ハンドブック. 地人書館.

③村中孝司・石井潤・宮脇成生・鷺谷いつみ(2005)特定外来生物に指定すべき外来植物種とその優先度に関する保全生態学的視点からの検討. 保全生態学研究10:19-33.

④FAO方式による雑草性リスク評価結果:

外来生物のリスク評価と蔓延防止策(文部科学省科学技術振興調整費・重要課題解決型プロジェクト)による雑草性リスク評価、日本農学会(2008)外来生物のリスク管理と有効利用. 養賢堂.

⑤地方公共団体や民間団体により、対策の対象となっている種(数字は対策事例数)

環境省自然環境局野生生物課(2009)平成20年度外来種対策事例等に関する調査報告書.

環境省自然環境局野生生物課(2012)平成23年度外来種問題調査検討業務報告書.

⑥専門家アンケートで、ハビタットや在来種への影響が大きい(74人中5名以上があげた)種(数字は回答者数)

ハビタットの種類:海洋島、水生植物群落、河原・崩壊地の貧栄養砂礫地、里山の二次草原、貧栄養湿地、砂浜海岸、高山植生、塩性湿地、雑木林・都市林、極相林、低地岩場、海岸の岩場

小池文人・小出可能・西田智子・川道美枝子(2010)専門家アンケートによる在来植物の脅威となる外来生物の重要度評価 https://www.jstage.jst.go.jp/article/hozen/20/1/20_KJ00010017170/_pdf/-char/ja

⑦都道府県の外来種リストや条例に掲載されている種。なお、検討に当たっては2024年5月時点の掲載状況を参考とした。

⑧多くの河川で確認されている種と、確認される河川数が急激に増えている種(表の数字は3回の調査での確認河川数)

河川水辺の国勢調査1・2・3巡目調査結果総括検討〔河川版〕(生物調査編)平成20年3月 国土交通省河川局河川環境課
https://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/mizukokuweb/download/h17made_soukatu.htm

⑨緑化植物に関する三省調査で、法面緑化地周辺において逸出が確認された種(括弧内は調査実施主体の略)

環境省自然環境局・農林水産省農村振興局・林野庁・国土交通省都市・地域整備局・国土交通省河川局・国土交通省道路局・国土交通省港湾局(2006)平成17年度外来生物による被害の防止等に配慮した緑化植物取扱方針検討調査委託事業報告書.

なお、生態系への影響に対応した望ましい取扱方向(案)の対象種は、イネ科植物、ハリエンジュ、(外国産)在来緑化植物とされている。

⑩海外の評価

ISSG掲載種: Lists of Invasive Alien Species (IAS), <https://www.iucngisd.org/gisd/>

⑪その他

検討会委員からの情報提供等

⑫2024年度に、リスト検討会委員、関係省、地方環境事務所及び地方公共団体等に行った意向調査であげられた種類。

＜主な参考文献＞

引用形式(略称)	文献
IPCW	Bossard, C. C., J. M. Randall and M. C. Hochovsky, 2000. Invasive Plants California's Wildlands. University of California, Berkeley. 360pp.
CABI	Centre of Agriculture and Biosciences International. Invasive Species Compendium. https://www.cabdigitallibrary.org/product/QI
海老原図鑑1	海老原淳, 2016. 日本産シダ植物標準図鑑1. 学研プラス, 東京.
FNA	Flora of North America. http://www.efloras.org/flora_page.aspx?flora_id=1
GCW	Global Compendium of Weeds. http://www.hear.org/gcw/index.html
ブラジル	橋本梧郎, 1996. ブラジル産薬用植物事典. アボック社.
樹木	林弥栄, 1985. 山溪カラー名鑑日本の樹木. 山と溪谷社.
TWWW	Holm, L. G., D. L. Plucknett, J. V. Pancho and J. P. Herberger, 1991. The world's worst weeds. Krieger Publishing Company, Malabar, Florida. 609pp.
WWND	Holm, L., J. Doll, E. Holm, J. Pancho and J. Herberger, 1997. World weeds, Natural histories and distribution. John Wiley & Sons, Inc. 1129pp.
GAWW	Holm, L. G., J. V. Pancho, J. P. Herberger and D. L. Plucknett, 1991. A Geographical Atlas of World Weeds. Krieger Publishing Company, Malabar, Florida.
カヤツリグサ	星野卓二・正木智美・西本眞理子, 2011. 日本カヤツリグサ科植物図譜.
有用	堀田満・緒方健・新田あや・星川清親・柳宗民・山崎耕宇, 1989. 世界有用植物辞典. 平凡社.
PIER	Institute of Pacific Islands Forestry, Pacific Island Ecosystems at Risk (PIER) Plant threats to Pacific ecosystems. http://www.hear.org/pier/index.html
シダ	岩槻邦男, 1992. 日本の野生植物シダ. 平凡社.
コケ	岩月善之助, 2001. 日本の野生植物コケ. 平凡社.
JF	JFコード(日本花き取り引きコード)センター. http://www.jfcode.jp/TOP.aspx
日本水草	角野康郎, 2014. ネイチャーガイド日本の水草. 文一総合出版.
梶田ほか2022	梶田結衣・米倉浩司・遠山弘法・赤井賢成・天野正晴・阿部篤志・内貴章世, 2022. 沖縄県西表島における外来植物目録. 大阪市立自然史博物館研究報告, 76: 125-141.
環境省2025	環境省, 2025. 令和7(2025)年度「特定外来生物の市区町村別侵入状況の把握のためのアンケート」調査(暫定).
Kaufman	Kaufman, S. R. and W. Kaufman, 2012. Invasive plants. A guide to identification, impacts, and control of common North American species. Stackpole Books. 518pp.
雑管	草薙得一・近内誠登・芝山秀次郎, 1994. 雑草管理ハンドブック. 朝倉書店.
イネ2	桑原義晴, 2008. 日本イネ科植物図譜. 全国農村教育協会.
950種	森昭彦, 2020. 帰化&外来植物見分け方マニュアル950種. 株式会社秀和システム.
目録	邑田仁・米倉浩司, 2012. 日本維管束植物目録. 北隆館.
農研	農研機構畜産草地研究所, 写真で見る外来雑草, 侵入危険雑草種の発芽特性と防除方法. https://www.naro.go.jp/laboratory/nilgs/weed_prevention/index.html
野生植物1	大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司, 2015. 改訂新版日本の野生植物1. 平凡社, 東京.
野生植物2	大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司, 2016. 改訂新版日本の野生植物2. 平凡社, 東京.
野生植物3	大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司, 2016. 改訂新版日本の野生植物3. 平凡社, 東京.
野生植物4	大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司, 2017. 改訂新版日本の野生植物4. 平凡社, 東京.
野生植物5	大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司, 2017. 改訂新版日本の野生植物5. 平凡社, 東京.
琉球樹木	大川智史・林将之, 2016. ネイチャーガイド琉球の樹木, 奄美・沖縄～八重山の亜熱帯植物図鑑. 文一総合出版.
琉球弧	大野照好・片野田逸朗, 1999. 琉球弧・野山の花. 南方新書.
イネ	長田武正, 1989. 増補日本イネ科植物図鑑. 平凡社.
観葉	尾崎章・河瀬晃四郎・山中雅也, 1991. 山溪カラー名鑑観葉植物. 山と溪谷社.
POWO	Royal Botanic Gardens, Kew, Plants of the World Online. https://powo.science.kew.org/
花粉	斎藤洋三・井出武・村山貢司, 2006. 新版・花粉症の科学. 化学同人.
熱帯花木	坂崎信之, 1998. 日本で育つ熱帯花木植栽事典. アボック社.
木本Ⅰ	佐竹義輔・原寛・亘理俊次・富成忠夫, 1989. 日本の野生植物木本Ⅰ. 平凡社.
木本Ⅱ	佐竹義輔・原寛・亘理俊次・富成忠夫, 1989. 日本の野生植物木本Ⅱ. 平凡社.
草本Ⅰ	佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫, 1982. 日本の野生植物草本Ⅰ 単子葉類. 平凡社.
草本Ⅲ	佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫, 1982. 日本の野生植物草本Ⅱ 合弁花類. 平凡社.
草本Ⅱ	佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫, 1982. 日本の野生植物草本Ⅱ 離弁花類. 平凡社.
緑化2023	生物多様性に配慮した緑化植物の取り扱いに関するガイドライン2023. https://www.jsrt.jp/tech/Tech_Files/teigen2019/guideline2023.pdf
牧草	清水矩宏・宮崎茂・森田弘彦・廣田伸七, 2005. 牧草・毒草・雑草図鑑. 全国農村教育協会.
写真図鑑	清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七, 2001. 日本帰化植物写真図鑑. 全国農村教育協会.
写真図鑑	植村修二・勝山輝男・清水矩宏・水田光雄・森田弘彦・廣田伸七・池原直樹, 2010. 日本帰化植物写真図鑑第2巻. 全国農村教育協会.
写真図鑑	植村修二・勝山輝男・清水矩宏・水田光雄・森田弘彦・廣田伸七・池原直樹, 2015. 増補改訂日本帰化植物写真図鑑第2巻. 全国農村教育協会.
帰化植物	清水建美, 2003. 日本の帰化植物. 平凡社.
外来生物	自然環境研究センター, 2008. 日本の外来生物. 平凡社.
園芸	鈴木基夫・横井政人, 1998. 山溪カラー名鑑園芸植物. 山と溪谷社.
便覧	太刀掛優・中村慎吾, 2007. 改訂増補帰化植物便覧. 比婆科学教育振興会.
樹の花3	高橋秀男・勝山輝男, 2000. 山溪ハンディ図鑑3 樹に咲く花、離弁花①. 山と溪谷社.
樹の花4	高橋秀男・勝山輝男, 2000. 山溪ハンディ図鑑4 樹に咲く花、離弁花②. 山と溪谷社.
樹の花5	高橋秀男・勝山輝男, 2000. 山溪ハンディ図鑑5 樹に咲く花、合弁花・単子葉・裸子植物. 山と溪谷社.
粗飼料	高野信雄, 1989. 粗飼料・草地ハンドブック. 養賢堂.
世雑Ⅰ	竹松哲夫・一前宣正, 1987. 世界の雑草Ⅰ—合弁花類—. 全国農村教育協会.

世雑Ⅱ	竹松哲夫・一前宣正, 1993. 世界の雑草Ⅱ―離弁花類―. 全国農村教育協会.
世雑Ⅲ	竹松哲夫・一前宣正, 1997. 世界の雑草Ⅲ―単子葉類―. 全国農村教育協会.
小笠原	豊田武司, 2003. 小笠原植物図譜(増補改訂版). アポック社.
小笠原固有	豊田武司, 2014. 小笠原諸島固有植物ガイド. ウッズプレス.
園芸事典	塚本洋太郎, 1994. 園芸植物大事典全3巻. 小学館.
USDA	United States Department of Agriculture, Natural Resources Conservation Service, Plants Database. http://plants.usda.gov/java/
IPSW	Weber, E., 2003. Invasive Plant Species of the World, A Reference Guide to Environmental Weeds. CABI Publishing.
WFO	WFO, 2022. World Flora Online. Published on the Internet; http://www.worldfloraonline.org
水草Ⅰ	山崎美津夫・山田洋, 1994. 世界の水草Ⅰ. ハロウ出版社.
水草Ⅱ	山崎美津夫・山田洋, 1994. 世界の水草Ⅱ. ハロウ出版社.
水草Ⅲ	山崎美津夫・山田洋, 1994. 世界の水草Ⅲ. ハロウ出版社.
YList	米倉浩司・梶田忠, 2003-. BG Plants 和名-学名インデックス(YList). http://ylist.info/ ※URLは2025年8月に参照。ただし、一部は平成27年のリスト作成時や過年度納品物の引用によるものがある。

＜種別の参考文献＞

引用形式	文献	種名
勝山2013	勝山輝男, 2013. 静岡県麻機遊水地で発見された日本産新帰化植物アサハタヤガミスゲ(新称). 神奈川県立博物館研究報告. 自然科学, 42: 7-12.	アサハタヤガミスゲ
千葉・矢野2025	千葉道德・矢野興一, 2025. 帰化種アサハタヤガミスゲ(カヤツリグサ科)新潟県に産す. 莎草研究 27:35-37.	アサハタヤガミスゲ
半田2005	半田俊彦, 2005. 緑化植物どこまできわめるアツバキミガヨラン(Yucca gloriosa L.). 日本緑化工学会誌, 31(4): 450.	アツバキミガヨラン
山崎・田金2020	山崎海都・田金秀一郎, 2020. 鹿児島県の外来植物 V: アマゾントチカガミ Limnobium laevigatum (Humb. et Bonpl. ex Willd.) Heine. Nature of Kagoshima, 47: 245-248.	アマゾントチカガミ
金指ほか2023	金指あや子・菊地賢・大曾根陽子・澤田與之・野村勝重, 2023. 希少樹種ハナノキ自生地域への近縁外来種アメリカハナノキの植栽混入と侵入の実態. 日本生態学会第60回全国大会講演要旨.	アメリカハナノキ
菊池ほか2015	菊地賢・金指あや子・大曾根陽子・澤田興之・野村勝重, 2015. 絶滅危惧種ハナノキの自生地域における近縁外来種アメリカハナノキの植栽混入. 日本緑化工学会誌, 40(3): 457-464.	アメリカハナノキ
沖2013	沖陽子, 2013. 雑草の多面的機能を活用した環境修復に関する実証研究. 雑草研究, 58(4): 190-197.	アメリカミズユキノシタ
千葉県史料研究財団2003	千葉県史料研究財団, 2003. 千葉県の自然誌別編4千葉県植物誌. 県史シリーズ, 451. 千葉県.	アメリカヤガミスゲ
H16第1回G会合植物資料	平成16年第1回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(植物)会議資料 https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/data/sentei/plant01/index.html	イチイツタ
海洋産業研究会2003	海洋産業研究会, 2003. 変異型イチイツタ(キラー海藻)の繁茂等に関する実態調査.	イチイツタ
小松2002	小松輝久, 2002. イチイツタ～キラー海藻, 日本海へ侵入. (日本生態学会編), 外来種ハンドブック, pp. 203. 地人書館.	イチイツタ
藤井・角野2010	藤井聖子・角野康郎, 2010. 外来水生植物ウチワゼニグサの除去方法の効果の検証. 水草研究会誌, 93: 30-33.	ウチワゼニクサ
H31第8回G会合植物資料	平成31年第8回特定外来生物等分類群専門家グループ会合(植物)議事概要 https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/data/sentei/plant08/gaiyou.pdf	ウトウリクлария・インフラタ、ウトウリクлария・プラテンシス、エフクレタヌキモ
Kadono et al. 2019	Kadono, Y., T. Noda, K. Tsubota, K. Shutoh and T. Shiga, 2019. The identity of an alien Utricularia (Lentibulariaceae) naturalized in Japan. Acta Phytotaxonomica et Geobotanica, 70(2): 129-134. https://www.jstage.jst.go.jp/article/apg/70/2/70_201820/pdf	ウトウリクлария・インフラタ、ウトウリクлария・プラテンシス
Titus & Grisé. 2009	Titus, J. E. and D. J. Grisé, 2009. The Invasive Freshwater Macrophyte Utricularia inflata (Inflated Bladderwort) Dominates Adirondack Mountain Lake Sites. The Journal of the Torrey Botanical Society, 136(4): 479-486.	ウトウリクлария・インフラタ、ウトウリクлария・プラテンシス
WA	Natural Resources WA Invasive Ranking System https://dnr.wa.gov/natural-heritage-program/ecosystems-washington/wa-invasive-ranking-system	ウトウリクлария・インフラタ、ウトウリクлария・プラテンシス
CARNIVOROUS PLANT NURSERY	CARNIVOROUS PLANT NURSERY https://carnivorousplantnursery.com/	ウトウリクлария・インフラタ、ウトウリクлария・プラテンシス
天本・須山2017	天本匡宥・須山知香, 2017. 岐阜市で侵略的外来種ウロコハタケゴケRiccia lamellosaを確認. 岐阜県植物研究会誌 33:25-28.	ウロコハタケゴケ
古木2000	古木達郎, 2000. 日本新産のRiccia lamellosa Raddi(ウロコハタケゴケ:新称). 蘚苔類研究, 7(10): 314-316.	ウロコハタケゴケ
山内2023	山内喜朗, 2023. 名古屋近郊におけるタイ類外来種の拡散状況. 名古屋の生物多様性, 10: 67-72.	ウロコハタケゴケ
亀山・大原2007	亀山慶晃・大原雅, 2007. 浮遊植物タヌキモ類の繁殖様式と集団維持. 日本生態学会誌, 57: 245 - 250.	エフクレタヌキモ
五十嵐ほか2001	五十嵐博・丹羽真一・渡辺修・渡辺展之, 2001. 北海道羊蹄山の高等植物目録. 小樽市博物館紀要, 14: 91-117.	オオアワガエリ、カモガヤ
原田2014	原田修, 2014. ウトナイ湖での市民参加によるオオアワダチソウの抑制管理. モーリー, 37: 26-29.	オオアワダチソウ
農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究所HP	農 業 ・ 食 品 産 業 技 術 総 合 研 究 機 構 動 物 衛 生 研 究 所 , 写 真 で 見 る 家 畜 の 有 毒 植 物 と 中 毒 http://www.naro.affrc.go.jp/org/niah/disease_poisoning/plants/index.html(2017年3月参照)	オオオナモミ
農業・食品産業技術総合研究機構畜産草地研究所2013	農業・食品産業技術総合研究機構畜産草地研究所, 2013. 技術リポート13号夏作飼料作物における帰化雑草の発生実態調査報告書.	オオオナモミ
福原ほか2014	福原富士美・横田潤一郎・前村良雄・清水俊夫, 2014. 柿田川におけるオオカワヂシャの生態と駆除に関する課題. リバーフロント平成25年度研究所報告, pp. 105-113.	オオカワヂシャ
角野2010	角野康郎, 2010. オオカワヂシャの生態と分布の現状. 水草研究会誌, 93: 23-29.	オオカワヂシャ
藤井ほか2016b	藤井伸二・牧雅之・志賀隆, 2016. 新外来水草コウガイセキショウモおよびオーストラリアセキショウモの同定. 水草研究会誌, 103: 8-12.	オーストラリアセキショウモ、コウガイセキショウモ
Wasekura et al.2016	Wasekura, H., S. Horie, S. Fujii, M. Maki, 2016. Molecular identification of alien species of Vallisneria (Hydrocharitaceae) species in Japan with a special emphasis on the commercially traded accessions and the discovery of hybrid between nonindigenous V. spiralis and native V. denseserrulata. Aquatic Botany, 128: 1-6.	オーストラリアセキショウモ、コウガイセキショウモ
塚本1994	塚本洋太郎, 1994. 園芸植物大事典全3巻. 小学館.	オオバナイトタヌキモ
国土交通省淀川河川事務所2020	国土交通省淀川河川事務所, 2020. 淀川環境委員会配布資料. 令和元年度淀川環境委員会各部会からの報告. https://www.kkr.mlit.go.jp/yodogawa/activity/comit/kankyo_iinkai/bd083b0000004t52-att/01.houkoku.pdf	オオバナミズキンバイ
須山ほか2008	須山知香・佐藤杏子・植田邦彦, 2008. 侵略的水草Ludwigia grandiflora subsp. grandiflora(新称:オオバナミズキンバイ、アカバナ科)の野外生育確認およびその染色体数. 水草研究会誌, 89: 1-8.	オオバナミズキンバイ
内藤ほか2014	内藤麻子・稗田真也(2014)和歌山の帰化植物その8 オオバナミズキンバイ(アカバナ科)博物館だより. 32(3): 5.	オオバナミズキンバイ

Peterson et al. 2022	Peterson, P. M., R. J. Soreng, K. Romaschenko, P. Barberá, A. Quintanar, C. Aedo, and J. M. Saarela, 2022. Phylogeny and biogeography of Calamagrostis (Poaceae: Pooideae: Poeae: Agrostidinae), description of a new genus, Condilorachia (Calothecinae), and expansion of Greeneochloa and Pentapogon (Echinopogoninae). Journal of Systematics and Evolution, 60(3): 570–590.	オオハマガヤ、ビーチグラス
一澤2007	一澤麻子, 2007. 多摩川中流域における河川敷植生の復元と管理についての研究. とうきゅう環境浄化財団.	オオフタバムグラ
佐藤1999	佐藤恭子, 1999. シナダレスズメガヤが定着した礫洲における砂泥の堆積と植生との関係. 神奈川県立自然保護センター報告, 16: 1–8.	オオフタバムグラ
浅井1993	浅井康宏, 1993. 緑の侵入者たち(帰化植物のはなし). 朝日選書. 朝日新聞社.	オニハマダイコン
吉田2015	吉田寛, 2015. コマツナギ (Indigofera pseudo-tinctoria Matsum.), 中国産コマツナギ, キダチコマツナギ (Indigofera spp.). 日本緑化工学会誌, 41(2): 351.	外国産コマツナギ
吉田・森本2005	吉田寛・森本幸裕, 2005. 法面緑化における中国産コマツナギと常緑広葉樹の混播効果に関する研究. 日本緑化工学会誌, 31(2): 269–277.	外国産コマツナギ
森田・芝池2012	森田竜義・芝池博幸, 2012. 雑種タンポポ研究の現在－見えてきた帰化種タンポポの姿. (森田竜義編), 帰化植物の自然史－侵略と攪乱の生態学, pp. 213–238. 北海道大学出版会.	外来性タンポポ種群
Bhattほか2012	Bhatt, J. R., J. S. Singh, S. P. Singh, R. S. Tripathi, and R. K. Kohli, 2012. Invasive Alien Plants, An ecological Appraisal for the Indian Subcontinent. CAB International.	カッコウアザミ、ランタナ類
鈴木ほか1984	鈴木住夫・伊藤操子・植木邦和, 1984. ギンギシの地下部切断片の再生力について. 雑草研究, 29(1): 51–54.	ギンギシ
EPPO	European and Mediterranean Plant Protection Organization (EPPO) Global Database. https://gd.eppo.int/	キダチカッコウアザミ
中野・本多2013	中野真理子・本多郁夫, 2013. 石川県新産キク科外来種キバナコウリンタンポポPilosella caespitosa(Dumort.) P.D.Sell et C.West. とハイコウリンタンポポPilosella officinarum F. Schultz & Schultz–Bip. 石川県立自然史資料館研究報告, 3: 11–14.	キバナコウリンタンポポ、ハイコウリンタンポポ
畑・可知2009	畑憲治・可知直毅, 2009. 小笠原諸島における野生化ヤギ排除後の外来木本種ギンネムの侵入. 地球環境, 14(1): 65–72.	ギンネム
環境省九州地方環境事務所那覇自然環境事務所2010	環境省九州地方環境事務所那覇自然環境事務所, 2010. 平成21年度奄美地域における国立公園特別地域内放出規制植物種検討調査業務報告書.	ギンネム
Gaskin & Schaal 2002	Gaskin, J. F., and B. A. Schaal, 2002. Hybrid Tamarix widespread in US invasion and undetected in native Asian range. Proceedings of the National Academy of Sciences, 99(17): 11256–11259.	ギョリュウ属
片山・狩山2012	片山久・狩山俊悟, 2012. 岡山市に広がりつつある帰化水草のLagarosiphon major. しぜんしくらしき, 80: 2–5.	クロモドキ
徳島県県土整備部東部県土整備局 2013	徳島県県土整備部東部県土整備局, 2013. 徳島東環状線阿波しらさぎ大橋環境モニタリング調査平成23年度報告書. https://www.pref.tokushima.lg.jp/ippannokata/kendozukuri/toshikeikaku/2012111600138/	ケナシヒメムカシヨモギ
池原1979	池原直樹, 1979. 沖縄植物野外活用図鑑 第2巻 栽培植物【沖縄・琉球・自然・生物・野草】. 新星図書出版.	ケブカルイラソウ
鹿児島県外来種リスト2025	鹿児島県外来種リスト(2025(令和7)年3月改正) https://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashi-kankyo/kankyo/yasei/gairai/documents/51561_20250403171036-1.pdf	ケブカルイラソウ、ベニツツバナ、パパイヤ、ナピアグラス
小杉2014	小杉和樹, 2014. 利尻島でも外来植物の駆除, 対策. モーリー, 37: 30–33.	コウリンタンポポ
武田2007	武田洋之, 2007. 礼文島の外来植物の現状. 北方山草, 24: 21–28.	コウリンタンポポ
河濟・古木2005	河濟英子・古木達郎, 2005. 日本新産の Riccia nigrella DC. (サビイロハタケゴケ 新称). 蘚苔類研究[Bryol. Res.], 9: 6–11.	サビイロハタケゴケ
Lowry & Plunkett 2020	Lowry II, P. P., and G. M. Plunkett, 2020. Resurrection of the genus Heptapleurum for the Asian clade of species previously included in Schefflera (Araliaceae). Novon: A Journal for Botanical Nomenclature, 28(3): 143–170.	シェフレラ・アクチノフィラ
環境省自然環境局生物多様性センター	環境省自然環境局生物多様性センター. 植生調査概要. 統一凡例一覧表. 二次草原(大区分). スズメノコビエ群落(中区分). シマスズメノヒエースズメノコビエ群落(小区分). http://gis.biodic.go.jp/webgis/sc-016.html	シマスズメノヒエ
牧野1961	牧野富太郎, 1961. 牧野新日本植物図鑑. 北隆館.	シマトベラ
大森2010	大森威宏, 2010. 群馬県新産外来植物・シラユキゲシ (Eomecon chionantha Hance: ケシ科). 群馬県立自然史博物館研究報告, 14: 125–126.	シラユキゲシ
比良松2012	比良松道一, 2012. 帰化能力を進化させた球根植物タカサゴユリ. (森田竜義編), 帰化植物の自然史, pp. 197–211. 北海道大学出版会.	シンテツポウユリ
Neira et al. 2005	Neira, C., L. A. Levin, and E. D. Grosholz, 2005. Benthic macrofaunal communities of three sites in San Francisco Bay invaded by hybrid Spartina, with comparison to uninvaded habitats. Marine Ecology Progress Series, 292: 111–126.	スパルティナ属
黒田ほか2023	黒田有寿茂・中濱直之・早坂大亮・玉置雅紀・花井隆晃, 2023. 干潟に生育する大型草本スパルティナ・アルテルニフロラ Spartina alterniflora: 生態特性と山口県下関市における侵入. 保全生態学研究, 28(1): 199–212.	スパルティナ属
相澤ほか2015	相澤章仁・田中愛子・小林弘和・小林達明, 2015. 利根運河堤防部における在来草原性植物群落に対する外来植物の影響評価. 日本緑化工学会誌, 40(4): 527–533.	セイバンモロコシ
奄美野生生物保護センター2024	奄美野生生物保護センター, 2024. 外来植物対策の優先度リスト. https://kyushu.env.go.jp/okinawa/awcc/alien-priority.html	セイヨウミズユキノシタ
関東地方環境事務所ほか2014	関東地方環境事務所・関東森林管理局・東京都・小笠原村, 2014. 世界自然遺産小笠原諸島生態系アクションプラン【第2期】.	ソウシジュ、リュウキュウマツ、テリハバンジロウ、モンツキガヤ
大西・勝山2011	大西亘・勝山輝男, 2011. 伊豆半島に帰化したナス科の世界的侵略種ダイオウナスビ(新称). 植物研究雑誌, 86(4): 253–255.	ダイオウナスビ
加藤2004	加藤英寿, 2004. 在来植物を追いやる外来植物. 神奈川県立生命の星・地球博物館(編), 東洋のガラパゴス 小笠原－固有生物の魅力とその危機－, pp. 107–113.	タイワンモクゲンジ
石嶺1987	石嶺行男, 1987. 琉球列島におけるサトウキビ畑の雑草植生の実態と強害草の生態・生理学的研究. 琉球大学農学部学術報告, 34: 95–185.	タチスズメノヒエ

厚生労働省HP	厚生労働省, 自然毒のリスクプロファイル: 高等植物: チョウセンアサガオ類1 (チョウセンアサガオ). http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000060246.html 65. 厚生労働省, 自然毒のリスクプロファイル: 高等植物: チョウセンアサガオ類2 (キダチチョウセンアサガオ). http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000061069 . 66. 厚生労働省, 自然毒のリスクプロファイル: 高等植物: ヨウシュヤマゴボウ. https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000079871.html	チョウセンアサガオ属、ヨウシュヤマゴボウ
藤本ほか1990	藤本滋生・松元健二・山中修・菅沼俊彦・永浜伴紀, 1990. 本邦に自生する植物の澱粉に関する研究第16報ツルドクダミ, モミジヒルガオ, ヤマノイモの澱粉について. 澱粉科学, 37(1): 7-11.	ツルドクダミ
竹松・一前1987	竹松哲夫・一前宣正, 1987. 世界の雑草 I —合弁花類—. 全国農村教育協会.	ツルヒヨドリ
橋本ほか2003	橋本佳延・服部保・石田弘明・赤松弘治・田村和也, 2003. 猪名川におけるトウネズミモチの分布. 人と自然, 14: 55-61.	トウネズミモチ
橋本ほか2005	橋本佳延・服部保・石田弘明・戸井可名子, 2005. 国内における外来樹木トウネズミモチの野外逸出. ランドスケープ研究, 68(5): 713-716.	トウネズミモチ
藤原ほか2008	藤原道郎・大藪崇司・澤田佳宏・山本聡, 2008. 分布情報を基にした島嶼生態系における特定外来生物ナルトサワギク (<i>Senecio madagascariensis</i> Piret) の防除可能性. 平成19年度共同研究報告書外来植物種のフェノロジーに関する解明と住民への情報発信・協働による駆除方法の検討, pp. 8-17. 兵庫県立淡路景観園芸高校.	ナルトサワギク
小池ほか2015	小池文人・小出可能・西田智子・川道美枝子, 2015. 専門家アンケートをもとにした一対比較による在来植物の脅威となる外来生物の重要度評価. 保全生態学研究, 20: 87-100.	ナルトサワギク
Maesako et al.2007	Maesako, M., S. Nanami, and M. Kanzaki, 2007. Spatial distribution of two invasive alien species, <i>Podocarpus nagi</i> and <i>Sapium sebiferum</i> , spreading in a warm-temperate evergreen forest of the Kasugayama Forest Reserve. <i>Japan Vegetation Science</i> , 24: 103-112.	ナンキンハゼ
奥川・中坪2009	奥川裕子・中坪孝之, 2009. 外来木本ナンキンハゼの逸出とその制限要因. 広島大学総合博物館研究報告, 1: 63-70.	ナンキンハゼ
French,K.2021	French, K., 2021. Invasion by hawkweeds. <i>Biol Invasions</i> , 23: 3641-3652.	ハイコウリンタンポポ
持田2012	持田誠, 2012. 帯広市新産外来種ハイコウリンタンポポ <i>Hieracium pilosella</i> L. 帯広百年記念館紀要, 30: 11-14.	ハイコウリンタンポポ
立松2022	立松和晃, 2022. 福井県内で新たに確認された外来植物ハイコウリンタンポポ <i>Pilosella officinarum</i> F. Schultz & Schultz-Bip. 福井市自然史博物館研究報告, 第69号: 97-100.	ハイコウリンタンポポ
植村2013	植村修二, 2013. ハイコウリンタンポポ <i>Hieracium pilosella</i> L. の逸出. 全農教・日本帰化植物友の会通信, No11.	ハイコウリンタンポポ
勝山ほか2011	勝山輝男・支倉千賀子・小久保恭子, 2011. 伊豆諸島青ヶ島の維管束植物. <i>Bull. Kanagawa prefect. Mus.(Nat. Sci.)</i> , 40: 7-34.	ハナシュクシャ
田中・田中2018	田中優太郎・田中麻理, 2018. 屋久島における外来植物の観察記録. <i>Nature of Kagoshima</i> , 44: 383-386.	ハナシュクシャ、ベンガルヤハズカズラ
崎尾2009	崎尾均(編), 2009. ニセアカシアの生態学. 文一総合出版.	ハリエンジュ
Mostow et al. 2021	Mostow R. S., F. Barreto, R. Biel, E. Meyer, and S. D. Hacker. 2021. Discovery of a dune-building hybrid beachgrass (<i>Ammophila arenaria</i> x <i>A. breviligulata</i>) in the U.S. Pacific Northwest, <i>Ecosphere</i> 12, e03501.	ビーチグラス
Askerooth et al. 2024	Askerooth R., R. S. Mostow, P. Ruggiero, F. Barreto, S. D. Hacker. 2024. A novel hybrid beachgrass is invading U.S. Pacific Northwest dunes with potential ecosystem consequences, <i>Ecosphere</i> 15, e4830.	ビーチグラス
Mostow et al. 2024	Mostow R. S., F. Barreto, and S. D. Hacker. 2024. A hybrid beachgrass (<i>Ammophila arenaria</i> x <i>A. breviligulata</i>) is more productive and outcompetes its non-native parent species, <i>Oecologia</i> 205, 81-94.	ビーチグラス
服部ほか1996	服部保・澤田佳宏・小舘誓治・浅見佳世・石田弘明, 1996. 都市林の生態学的研究 I . 宝塚市ニュータウン内のオオバヤシャブシーセイヨウイボタ群落. 人と自然, 7: 73-87.	ヒイラギナンテン
askifas	askifas https://edis.ifas.ufl.edu/	ヒマワリカッコウ
NSW Government	NSW Government https://www.dpi.nsw.gov.au/	ヒマワリカッコウ
初島・天野1994	初島住彦・天野鉄夫, 1994. 琉球植物目録. 沖縄生物学会.	ヒメイワダレソウ
多和田・池原1989	多和田真淳・池原直樹, 1989. 沖縄植物野外活用図鑑第8巻ばら科～きつねのまご科. 新星図書.	ヒメイワダレソウ
角野2021	角野康郎, 2021. 富山県高岡市の湧水に野生化した外来水生植物ヒメウキオモダカ(新称) <i>Sagittaria subulata</i> (L.) Buch.(オモダカ科). 植物地理・分類研究, 69(2): 225-231.	ヒメウキオモダカ
森井・小玉2006	森井愛・小玉芳敬, 2006. 鳥取砂丘における植生被覆に伴う飛砂量の減少. 地域学論集 鳥取大学地域学部紀要, 3: 123-133.	ヒメスイバ、マンテマ
横川2026	横川昌史, 2026. 淀川水系にやってきた外来水草ヒメタデハグロ. <i>Nature Study</i> 72(2): 7-8.	ヒメタデハグロ
naturplant3752	帰化植物メーリングリスト(naturplant@ml.affrc.go.jp) naturplant: 3752	ヒメヒオウギズイセン
新垣2024	新垣裕治, 2024. 羽地内海及び屋我地島周辺におけるヒルギダマシ <i>Avicennia marina</i> 及びウラジロヒルギダマシ <i>A. alba</i> の分布拡大と駆除に関する考察. 名桜大学紀要, 28: 1-8.	ヒルギダマシ
新垣ほか2013	新垣裕治・山田慶紀・比嘉博斗, 2013. 沖縄県屋我地島の饒平名干潟に分布拡大するヒルギダマシ (<i>Avicennia marina</i>) に関する研究: 国内移入したマングローブ種の分布動態. 名桜大学総合研究所紀要, (22): 17-23.	ヒルギダマシ
伊藤ほか2001	伊藤風香・大窪久美子・馬場多久男, 2001. 南アルプス戸台川中、下流域における河辺植生に及ぼす帰化植物の影響. ランドスケープ研究, 64(5): 577-582.	フサフジウツギ
六甲山系電子植生図鑑	国土交通省 近畿地方整備局 六甲砂防事務所, 六甲山系電子植生図鑑. https://www.kkr.mlit.go.jp/rokko/rokko/vegetation/index.html	フサフジウツギ
大窪・岡2005	大窪久美子・岡雅文, 2005. 三峰川水系における帰化植物フサフジウツギと在来近縁種の分布状況及び環境条件. ランドスケープ研究, 68(4): 301-304.	フサフジウツギ
原田1990	原田二郎, 1990. 東南アジアの帰化雑草 <i>Mimosa pigra</i> L.-人為的伝播の一例. 日本作物学会東北支部会報, 33:1-3.	ブラックミモザ
猪瀬ほか2015	猪瀬礼璃菜・兼子伸吾・黒沢高秀, 2015. 福島県喜多方市ひめさゆりの丘の植物相と絶滅危惧植物の現状. 福島大学地域創造, 26(2): 124-141.	ブタナ
藤井ほか2016a	藤井聖子・中村俊之・山ノ内崇志・角野康郎, 2016. 徳島県海部川水系母川における外来水生植物ラージパールグラス侵入の現状. 水草研究会誌, 103: 1-7.	マルバヒメアメリカアゼナ
金子2023	金子誠也, 2023. 熊本県恵津湖で新たな外来植物の侵入を確認. モニタリングサイト1000ニュースレター, 16.	マルバヒメアメリカアゼナ
水田2020	水田光雄, 2020. [naturplant:6819] マルバヒメアメリカアゼナ(ラージパールグラス)の帰化について. 帰化植物ML(naturplant@ml.affrc.go.jp).	マルバヒメアメリカアゼナ

中田・川住2015	中田政司・川住清貴, 2015. 富山県高岡市で野生化した外来水草ラージパールグラス. 富山県中央植物園研究報告, 21: 23-27.	マルバヒメアメリカゼナ
副島ほか1990	副島和則・山田卓三・長谷川二郎, 1990. 近畿地方におけるミカツキゼニゴケの生活史. 日本蘚苔類学会会報, 5(6): 91.	ミカツキゼニゴケ
嶋村・出口2001	嶋村正樹・出口博則, 2001. ミカツキゼニゴケの胞子体について. 蘚苔類研究, 8(2): 54.	ミカツキゼニゴケ
Hattori1944	Sinsuke Hattori, 1944. Hepaticarum species novae et minus cognitae nipponenses(Ⅱ). 植物學雜誌, 58巻, pp. 1-7.	ミカツキゼニゴケ
赤司2023	赤司一, 2023. ミカツキゼニゴケの国内での雌雄の分布とフェノロジー. 蘚苔類研究, 12:189.	ミカツキゼニゴケ
加藤2025	加藤大幹, 2025. 札幌市に生育するコケ植物外来種ミカツキゼニゴケの把握と雌雄性. 蘚苔類研究 13:78.	ミカツキゼニゴケ
久米2021	久米修, 2021. 香川県産植物目録・補遺5. 香川生物, 48: 63-73.	ミズヒナゲシ
USDA2021	United States Department of Agriculture Animal and Plant Health Inspection Service, 2021. Weed Risk Assessment for Hydrocleys nymphoides (Alismataceae).	ミズヒナゲシ
外来種影響・対策研究会2008	外来種影響・対策研究会, 2008. 河川における外来種対策の考え方とその事例【改定版】ー主な侵略的外来種の影響と対策ー.	ミズヒマワリ
麦倉ほか2022	麦倉佳奈・Eldrin DLR. Arguelles・鎌倉史帆・大塚泰介・佐藤晋也, 2022. ミズワタクチビルケイソウCymbella janischii の近畿地方からの初記録およびその生細胞の形態観察. Diatom, 38: 49-53.	ミズワタクチビルケイソウ
洲澤ほか2011	洲澤多美枝・清野聡子・真山茂樹, 2011. 筑後川上流に大量出現した Cymbella janischii (A.W.F.Schmidt) De Toni と Gomphoneis minuta (Stone) Kociolek & Stoermer: 外来種珪藻の可能性について. Diatom, 27: 58-64.	ミズワタクチビルケイソウ
芦澤・加地2018	芦澤晃彦・加地弘一, 2018. ミズワタクチビルケイソウが放流アユの定着に与える影響. 山梨県水産技術センター事業報告書, 46: 34-38.	ミズワタクチビルケイソウ
洲澤・洲澤2021	洲澤譲・洲澤多美枝, 2021. 酒匂川(神奈川県)で採集された外来種ミズワタクチビルケイソウ. 神奈川県自然誌資料, 42: 87-93.	ミズワタクチビルケイソウ
石井ほか2021	石井裕一・増田龍彦・安藤晴夫・山崎孝史・清沢弘志, 2021. 外来付着珪藻Cymbella janischiiの多摩川水系での分布と季節消長. 水環境学会誌, 44: 51-57.	ミズワタクチビルケイソウ
水産庁2024	水産庁, 2024. 外来魚に立ち向かう.	ミズワタクチビルケイソウ
工藤2006	工藤洋, 2006. 日本産ジャンジン・タネツケバナ・ミチタネツケバナ・コタネツケバナ (アブラナ科, タネツケバナ属) に関するノート. 分類, 6(1): 41-49.	ミチタネツケバナ
Flora of China	Flora of China http://www.efloras.org/flora_page.aspx?flora_id=2	モウソウチクなどの竹類
南海日日新聞2024	南海日日新聞, 2024. 大瀬海岸で外来種駆除 浸食したモクマオウ伐採除去 奄美市笠利町(南海日日新聞2024年11月22日). https://www.nankainn.com/news/	モクマオウ
山田・辻村2020	山田宏之・辻村双葉, 2020. 奈良市における 4 種の観葉植物の都市定着現況に関する研究. 土木学会論文集 G (環境), 76(6): II 91-II 99.	ヤドリフカノキ
宮本ほか2007	宮本裕美子・石川慎吾・三宅尚, 2007. 外来種キツネノマゴ科ヤナギバルイラソウの生態学的特性と侵略性. 日本生態学会第54回全国大会講演要旨集. 一般講演 P3-164. http://www.esj.ne.jp/meeting/abst/ESJ54/P3-164.html	ヤナギバルイラソウ
中村2019	中村肇, 2019. 名古屋市守山区におけるヤナギバルイラソウの記録. なごやの生物多様性, 6: 93-94.	ヤナギバルイラソウ
北海道白老郡白老町2011	北海道白老郡白老町, 2011. ヨコスト湿原自然環境調査報告書.	ユウゼンギク
石狩浜海浜植物保護センター2006	石狩浜海浜植物保護センター, 2006. 石狩川河口湿地部における植生モニタリング区設置と植生概況(2003年度石狩浜海浜植物保護センター調査研究報告). 石狩浜海浜植物保護センター調査研究報告第2号.	ユウゼンギク
茨木ほか2015	茨木靖・大森威宏・勝山輝男・木下覺・久米修・木場英久・齋藤政美・野津貴章, 2015. 日本国内におけるヨシススキErianthus arundinaceus (Retz.) Jeswiet. (イネ科)の分布と生育状況について. 植物地理・分類研究, 62(2): 85-92.	ヨシススキ
多和田・池原1979	多和田真淳・池原直樹, 1979. 沖縄植物野外活用図鑑第3巻帰化植物. 新星図書.	ヨシススキ
山田2015	山田守, 2015. 緑化植物 ど・こ・ま・で・き・わ・め・る. 日本緑化工学会誌, 41(2): 352.	ヨシススキ
黒沢2021	黒沢高秀, 2021. 国史跡名勝南湖公園(福島県白河市)のスイレンの由来と近年の生育面積拡大. 福島大学地域創造, 32(2): 205-214.	園芸スイレン
角野2013	角野康郎, 2013. 消えるアゾラ・クリスタータ、広がる雑種アゾラ. 水草研究会誌, 99: 44-50.	外来アゾラ類
群馬県環境森林部自然環境課2012	群馬県環境森林部自然環境課, 2012. 群馬県の絶滅のおそれのある野生生物(群馬県レッドデータブック)植物編2012年改訂版.	外来クサフジ類
櫻井ほか2022	櫻井善文・矢部和夫・片桐浩司・椎野亜紀夫, 2022. 日本の寒冷地小河川におけるクサヨシ除去による沈水植物復元の検証. 湿地研究, 12: 早期公開版 1-15.	外来クサヨシ(リードカナリーグラス)
上山・久保田2009	上山泰史・久保田明人, 2009. 東北地域におけるクサヨシ遺伝資源の探索・収集. 植探報, 25: 25-28.	外来クサヨシ(リードカナリーグラス)
いがり2007	いがりまさし, 2007. 山溪ハンディ図鑑11日本の野菊. 山と溪谷社.	栽培キク属
中田1997	中田政司, 1997. 園芸ギクが野生ギクを滅ぼす? (八尋洲東編集、朝日百科植物の世界 I 種子植物双子葉類1), pp. 56. 朝日新聞社.	栽培キク属

※URLは2025年8月に参照。ただし、一部は平成27年のリスト作成時や過年度納品物の引用によるものがある。